

アラブストリート・リトルインディア

～シンガポールの文化・歴史について～

報告者：田中 富士子

1 概要

- ・シンガポールは多様な民族を反映した特色ある街並みが特徴的であり、代表的なものとして、中国系のチャイナタウン、イスラム教のモスクを中心としたカンポン・グラム（アラブストリートがあるエリア）、インド系のリトルインディア、マレーシアと中国文化が融合したプラナカン文化を感じるカトン地区がある。
- ・1989年に歴史的建造物保全に関するマスタープランが策定され、以降、民族を反映したこれらの街並みもこのプランに基づき保全されており、現在では多くの観光客も訪れている。

2 主な説明者

JTBシンガポール支店

3 主な説明内容

シンガポールは、淡路島ほどの面積で、200年前には住民は150人だったが、1819年にスタンフォード・ラッフルズ卿がジョホール王国と条約を結び、イギリスの通商拠点として設立し、中国、インドネシア、マレーシア、インドから人が移り住んだ。

1822年に民族別ゾーニングを定めた「ラッフルズ・タウンプラン」を策定し、民族グループベースでヨーロッパタウン、チャイナ・カンポン（現在のチャイナタウン）、チュリア・カンポン（現在のリトルインディア）、カンポン・グラムが整備された。その後、カンポン・グラムで急速な都市化が起こり、アラブストリートはそのエリアの主要なショッピングストリートとなり、現在もシンガポールの重要なイスラム教の中心地でもある。

1840年代初期、リトルインディアは、このコミュニティーの中心となった競馬場の完成に伴い、ヨーロッパ人の居住地として繁栄した。その後、ヨーロッパ人は現在のファーラー・パークに集まるようになり、同時に、セラングーン川沿いから、リトルインディアでの牛の取引が盛んになった。牛の取引を行うインド人が多く住む地域となり、インド人の商業中心地となった。

1989年以降、チャイナタウン、リトルインディア、カンポン・グラムなどが都市再開発庁（URA）によって保護地区に指定され、古い建物を改装して文化遺産として残された。

カンポン・GRAMには、1840年から1900年にかけて建てられたシンガポールの「第1世代」ショップハウスが並ぶ。サルタンモスクを中心に立ち並び、2階建ての上階に1つか2つの窓があるカラフルな建物の1階を使用し、伝統的な織物や手工芸品の店のほか、おしゃれなショップや飲食店が入る。イスラム教は豚肉、アルコールが禁止だが、トルコ人の店が増え、お肉を提供する店舗もある。おしゃれな容器に量り売りするアルコールの入っていない香水が安くて人気とのことである。

リトルインディアには寺院とモスク、ストリートアート、色鮮やかな塗装を施したショップハウスが混在しており、レストランのほか、ジュエリーやカラフルな絹製品、インドやスリランカなどの雑貨、生花の花輪を売る店が並ぶ。

これらの都市再開発庁（URA）によって保護地区に指定されている場所は、国の許可なしに店の改装を行うことができず、伝統的な街並みを保存して、観光名所となっている。

4 主な質疑

○ カンポン・GRAMやリトルインディアに住人は住んでいるのか？

→ 基本的に保護対象になっているショップハウスや建造物には居住していないが、エリア内にある住居では人が暮らしている。

○ 外国人観光客のオーバーツーリズム問題はあるのか？

→ 労働者が多く入ってくることによって仕事が減ることを懸念するが、外国人観光客が増えることは歓迎する。

2013年以降、アラブストリートへの訪問者数は減少し、小売店の売上げも減少したが、アラブストリートにあるカンポン・GRAMでデジタル再活性化が行われ、イノベーションと新技術の採用による業界の変革を支援し、小売業者の生産性と競争力の強化が行われた。現在はシンガポール全体の観光回復に伴い、訪問者数も増加傾向にある。

5 所感

シンガポールは経済的発展により国民一人当たりのGDPは世界第5位となり、中心街には高層ビルが立ち並ぶ。しかし、古くから繁栄した寺院やモスクを中心にした伝統的な古い街並みや伝統的歴史・文化が残るカンポン・GRAM、リトルインディアが残され、それぞれの民族が集まり信仰と生活の場となり、伝統や文化が守られている。

マレー系はイスラム教徒が多く、イスラム教の習慣は「六信五行」を基本とし、1日5回のメッカの方角への礼拝、ラマダン月（断食月）の断食、豚肉やアルコールの厳禁、女性は肌の露出を控える、右手は神聖、左手は不浄といった厳格なルールとマナーは日常生活の隅々にまで浸透している。インド系民族はヒンドゥー教徒が80%、イスラム教、キリスト教など様々な宗教を信仰し信仰心が厚い。ヒンドゥー教の生活習慣は、日々の礼拝やヨガ・瞑想の習慣、食事における菜食主義や牛への敬意、右手を使うなどのマナー、神

アラブストリート・リトルインディア

聖な部位である頭や耳を触らないといった特徴がある。また、家族を非常に大切にする文化がある。それぞれの民族の生活習慣は変えられないものであり、理解や尊重が共生社会で最も必要な事だと感じた。

中国系約 75%、マレー系約 15%、インド系約 8%、その他が約 2% の多民族国家であるが、お正月が 4 回あり、それぞれの民族の生活様式や文化を尊重し、平等と平和をつくる努力がなされており、日本でも参考にするべきところである。



現地を視察